

2008年度受託研究概要報告

三木鉄道跡地等利用検討協議会におけるイメージの具現化

研究メンバー

川北健雄 デザイン学部環境・建築デザイン学科教授

委託者

三木市

三木鉄道は大正5（1916）年に播州鉄道として開業して以来、地場産業である金物、穀物類の輸送に大きな役割を果たしてきたが、利用者数の減少による累積債務の増大により、平成20（2008）年3月末をもって、その歴史に幕を閉じた。そこで三木市では、残された施設や跡地の活用方法の検討を市民参加で行なうこととなり、沿線地域の代表者や公募委員等を含む、市長に選任された21人の委員で構成される「三木鉄道跡地利用等利用検討協議会」での議論を通して基本計画案の策定を行なうことになった。

この協議会は平成20年1月から10月にかけて6回開催され、第1回のブレインストーミングと第2回から第3回にかけての様々な可能性や具体化のための諸問題の検討の後、第4回および第5回の協議会において、おおよその意見集約を行なった。本受託研究では、このうち第4回および第5回の協議会のための資料づくりに協力し、それまでに示されたアイデアを具体的な計画案としてとりまとめ、一般の人々にも理解し易いパース等のイメージ図で表現して、協議会での議論に役立ててもらった。また、最後の第6回の協議会で合意された三木鉄道跡地利用基本計画案の策定においても、各種計画図やイメージ図の制作などの協力を行なった。

基本計画案では、市内の三木鉄道跡地のうち歴史的に重要な5つの地区を「原形保存地区」とし、これらと既存の寺社等の地域資源を軌道跡の散策路と自転車道でネットワーク化している。また、市街地にある旧三木駅周辺では、朝市の開催場所等、地域コミュニティの活性化を意図した機能も組み込んでいる。



写真1 原形保存地区A（旧三木駅）現況



図1 原形保存地区B（旧別所駅）保存イメージ



図2 原形保存地区D（旧石野駅）保存イメージ



図3 原形保存地区A（旧三木駅）周辺整備計画案 配置図



図4 ふれあい広場側鳥瞰図



図5 バス停車場側鳥瞰図

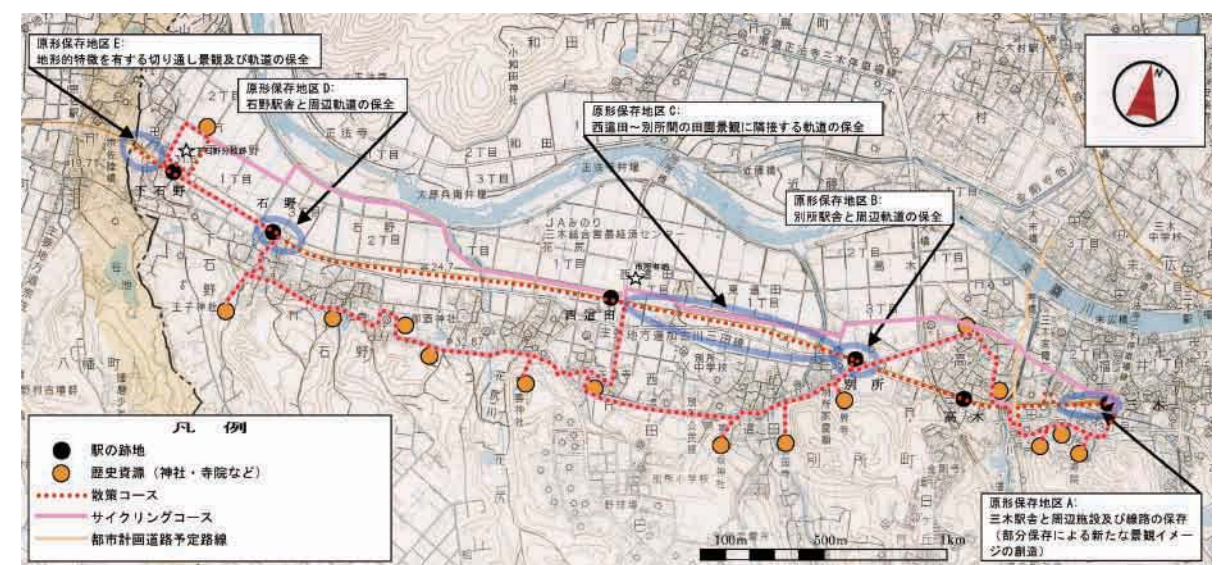


図6 散策・サイクリングコースと原形保存地区分布図